

国際ロータリー第2790地区 第8グループ

創立1957年3月23日

銚子ロータリークラブ会報

第3259号 2024年5月8日(水)発行

例会場 銚子商工会館5階大会議室(銚子市三軒町19-4)

TEL0479-23-0750

FAX0479-25-8789

Email d2790@choshi-rotary.club

HP <https://www.choshi-rotary.club>

本日のプログラム

移動例会 職場訪問・トーア産業(株)新工場見学

前回例会報告(4月24日)

点 鐘: 佐藤 直子会長

ロータリーソング: 四つのテスト

会長挨拶 「人生を変えたかったら」

よく「人生を変えたかったら習慣を変えなさい」と言われますが、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンのある研究者が、**新しい習慣を身につけるためには、どのくらいの日時を要するか**という調査を行いました。その内容は、学生たちに一定期間、運動とダイエットに取り組んでもらうというもので、結果は「**新しい習慣をつけるには平均66日が必要だった**」というものです。**66日続けると、習慣化する**、つまり無意識でも出来る状態になるのです。

心理学者のウィリアム・ジェームスは「人間は、生物学的に習慣が作られやすくできている。朝起きたらまず歯を磨くことから、寝る前に目覚ましをかけることまで、日々の行動の多くを自動的にできるのは、我々が『**習慣のかたまり**』にすぎないからである。」と言いました。それが分かったところで私たちは、習慣化するためには、**まずは、最初の一步目をスタートすることから始めなければならない**ことは当然のことです。

こんなお話があります。お腹を空かせた貧しい青年が、橋の上に座ってぼんやりと漁師たちの仕事を眺めていました。漁師の釣りカゴの中をのぞき、近くに魚の群れが泳いでいるのを見て、青年は言いました。「まったくあれだけの魚が手に入ったらぼくだって元気になれるのにな。魚を売って、服と食べ物を買えるのに」とすると、漁師の一

人が青年に話しかけました。「あのくらいの魚ならくれてやってもいいんだが、ちょっと頼みを聞いてくれるかな」「もちろんです」

「しばらく、この釣り糸の番をしてくれないか、街に用事があるんだ」と、その年配の漁師は言いました。青年は喜んで引き受けました。そうやって竿の番をしているうちに、魚がどんどん食いつき始め、彼は次から次へと釣り上げていきます。それがとても楽しくて、青年の顔には笑みがこぼれました。やがて漁師が帰って来て、こう言いました。「約束どおり魚をあげよう。さあ、自分で釣った魚を全部持っていきといい。それと、ひとつ忠告もしよう。今度何か必要となったら、『こうなればいいのに』などと空想にばかり耽って、時間を無駄にしてはだめだぞ」「すぐに仕事にとりかかり、自分の手で釣り糸を投げ込んで、何かをすることだ」

つまり・・・**ぐずぐずしていないで行動に移し、それを習慣化するとこまで続けることが大事だ**ということですね。ちなみに・・・**習慣化のプロセスは4段階あり**、①無意識無能(知らないののでできない)②意識無能(やってみようと意識してもできない)③意識有能(意識すればできる)④無意識有能(意識しなくてもできる)・・・この順番で習慣化していくそうです。

自分が習慣化したいと思うことのなかで、今は一体どの段階なのか見極めていきたいものです。ご清聴ありがとうございました。

幹事報告

【週報拝受】館山RC

- 2024年決議審議会クラブ提出決議承認(クラブ投票)について
- 地区月信報告システム移行に伴う使用URL変更のお知らせ

2023-24年度ゴードンR. マッキナリーR I 会長テーマ

CREATE HOPE in the WORLD



世界に希望を生み出そう

世界に希望を生み出そう

2790地区 鶴沢和広ガバナー(千葉若潮RC)スローガン

Bring up Engagement

エンゲージメントを育もう

製作◇広報・会報委員会 大岩將道 須永清彦◇

3. MCR レポート 3 月配信
4. 風の便り Vol. 9_No. 9(通刊 114 号)
5. 2790 地区ローターアクト第 52 回年次大会登録のご案内
6. シンガポール国際大会千葉ナイトご登録の皆様へ

…ガバナー事務所

7. 総会開催のご案内

…銚子交通安全協会

会員の記念日

入会記念日 東 祥三会員(4月20日)

ニコニコBOX

◇宮内 龍雄会員

わが家の庭で早春よりコブシ、サクラが咲き、今はジュンベリー、こでまり、ドウダンツツジが満開です。これから、ヤマボウシ、アジサイが楽しみです。(アオモミジもきれいです)

卓 話「父のこと」 大里 忠弘会員



最近アマゾンプライムで『ラーゲリより愛を込めて』という映画を見ました。この映画は、第二次世界大戦後の 1945 年を舞台に、シベリヤのラーゲリ強制収容所に抑留された日本人捕虜の実話に基づいた感動的なドラマです。主人公は、過酷な環境と絶望的な状況の中でも、帰国への希望を捨てず、仲間たちを励まし続け、彼の遠く離れた家族への思いと、生きる希望を失わない強い精神力を描いています。この映画を見て父も同じ経験をしたことを思い、ちょうどこの機会に父が、生前書き残したこの冊子を皆さんにご紹介することにしました。

父は、昭和十七年四月、佐倉五十七勲隊に召集され、1ヶ月の訓練の後、中国山東省に出動しています。部隊は主に中国の山東省の済南という町を中心に鉄道の警備をしており、ここに3年余りおり戦況も日本に不利になってきたころ、本土防衛隊として、本土に移動することになりましたが、結局今の北朝鮮の海に面した町、感光の警備につきました。後にわかったことですが、南方へ転戦した関東軍の代わりで、三カ月後に開始されたソ連軍の参戦に対

する備えであったようです。

いよいよ終戦を迎える8月15日、父は「日本は降伏した」と聞き、まさかと思ったが、同時に「これで家に帰れる」と内心安堵したそうです。

ソ連軍より日本から船が迎えに来たら日本へ帰すということだったので、九月上旬 船が迎えに来た、との報に父たちは歓喜したのですが、その船は日本船でなくソ連の貨物船だったそうで、やがて岸壁に近い鉄道の貨車に移され、結局、父たちはシベリヤに送られました。そうこうしているうちに父達を乗せた貨車は広原の中に、周囲に鉄条網をめぐらせてあるラーゲリ（強制収容所）に着いたのです。

九月の初めと言うのにこの辺の木はもう紅葉しており朝夕は霜が降りるような気候であり不安と恐怖の中、捕虜としての強制労働の第一歩が始まったそうです。

収容されている所は満州の国境に近い「コーガイ湖」と言う炭鉱地帯で、仕事はこの地域の開発でした。道路工事、倉庫の荷役、建築の下手子、木材の貨車卸し、農場でのジャガイモの種まきや収穫、パン工場の燃料作り等、何でもやらされたそうです。一週間に一度、休みの日は、部屋の掃除や衣類の洗濯をするのですが、毛布についているシラミをとったり、うす汚れた水で洗濯するので衣服はいつも黒ずんでいたそうです。

食料は耳鼻がついている豚の頭、野菜はキャベツの外側の固い葉、小粒のジャガイモなど支給されるが、牛や豚の耳や、ヒゲの付いたままの鼻の切れ端がはいっていることはざらだったそうです。各班にくばられた黒パンやゴツ煮は絶対公平に各自に分けられ、その最中は皆、目をさらのようにしてその様子を凝視していて、本当に食に窮すると人のことはかまっておられず戦友愛も何も無くなり、只只自分のみ生きていければ、と哀れな動物に過ぎなくなる、と綴っています。

シベリヤの気候は十月に入ると本格的な冬将軍が到来し、辺りは真っ白になり、分厚い長靴をはいても湿気でひやされ凍傷になるそうで、そんな時には部展の中は人の息で薄氷が張るほどだったそうです。また、外に設けてある厠（野天の便所 只穴が掘ってあるだけ）で用を足すと「大」の方はその形で凍りつきその物が段々盛り上がりピラミッドのような形になる。しゃがむとお尻がつかえるようになるので時々ツルハシでこれを砕かなければならなくなるのだが、その粉塵が外套に付き、部屋の温かさでそれが溶け、しばしば異様な悪臭に悩まされました。

湿地帯が多く、地盤の弱いこのシベリヤでは建築の基礎工事などは土が凍って固まっている真冬に行われ、父もこの作業をやらされたが、適当にやっても現場の監督には分からず、如何に早くこれを達成するかが肝心で、ノルマによって晩飯に差がつけられたようです。

真冬の作業には危険な仕事があり、それは皮のついた丸太を貨車から降ろす作業で、長さが10メートルはある丸太が五十トン貨車に一杯積み込まれて来る。これを雪の降っている真っ暗な夜間に降ろす。素手で零下数十度というのにシャツ一枚になって汗を流しながらの作業でした。うっかりしていたらこの大木の下敷きになり兼ねないので真剣そのものだったそうです。

食物では何といっても憧れは黒パンだったそうです。それも本当にお粗末なもので、これは唯一父達の腹に溜まる御馳走であり、作業中にも時々脳裏にうかぶほどだったそうです。苦しく酷い作業でもパンを目標にめげずにできた、と言っていました。また、道にパンのような物が落ちていたので作業を止め、ふっとんで拾いに行くと、何とそれは「煉瓦」でありとても残念。黒パン欲しさがにじみ出る話もあります。農場の作業は雪解けの頃から始まり、作業はジャガイモの種まきで、往復するとたっぴり一日かかってしまう程広がったそうです。途中で種芋の大きそうなのはポケットに入れ、休憩時間に食べてしまう始末でした。

この様な捕虜生活をしている二年目頃から日本へ手紙が出せるようになり、書く物が何も無いので缶詰の缶を切ってペン先をつくり「赤チン」をインク代りにして書いたそうで、でもその内容は検閲される為「元気である」ことしか書けなかったそうです。

結局、父のラーゲリでの抑留生活は4年間続きました。その間、片時も帰国することを考えなかった時はなかったそうです。昭和24年9月突然ソ連より帰国の達しがありナホトカ港に連れていかれましたが、今まで散々裏切られてきたので本当に船に乗るまでは安心できなかったそうです。現に父達より先にナホトカに来ていても未だ残って作業をさせられている人たちもいたようです。着いた港は舞鶴港で、外地に出征してから実に8年ぶりの帰還であったと感慨深めに綴っています。港には叔父や弟が迎えに来ていてくれて、この時の感激は今でも忘れることは出来ない。その上銚子も戦災に遭っているながら家族の者は皆健在なことを聞いて本当にうれしかった、とも。銚子駅には父の両親も駅頭まで出迎えに来ていて感極まったということです。帰宅直後、夢にまでみた真っ白い御飯に卵をかけて沢庵で食べた。この味は今でも忘れられない。ということでした。

後に父は、お陰で健康に恵まれ今日に至っているのも、考えようによってはあの過酷な経験が、丈夫な身体と何にでも耐え得る精神を作ってくれた、と思えばこの間の空白も口惜しくはない。こんなわけで私の青春時代は、苦難の一言に尽きる。だから私はこれを取り戻すべく、何時も二十歳位若い精神年齢をもって日々を送っている。と最後に綴っています。

【出席報告】

会員総数31名 出席計算28名
出席19名 欠席9名
出席率67.86%
欠席：東君・松本君・宮内(秀)君・村田君
島田君・上原君・林君・鈴木君
吉原君

【M U】

4/24 両RC ボーリング大会 (参加11名)
飯島君・泉君・金島君・宮内(秀)君
宮内(龍)君・大岩君・佐藤君・信太君・須永君
高橋君・寺内君

4/27 RAC 関東ブロック研修会 島田君
4/28 RAC 関東ブロック研修会 須永君



4/29 地区ラーニング・協議会 (参加7名)



飯島君・宮内(秀)君・宮内(龍)君・信太君
須永君・高橋君・寺内君

5/7 銚子東RC 島田君

【ニコニコ】

ニコニコBOX	¥ 4,000	計	¥379,000
スモールコイン	¥ —	計	¥ 37,333
米山BOX	¥ 1,700	計	¥ 35,575
希望の風	¥ —	計	¥207,100
台湾東部沖地震支援募金箱 ¥10,000		合計	¥40,000

次週(5月15日)プログラム

「新入会員卓話」林 紀宏会員

お弁当：膳(幕の内)



銚子 RC・銚子東 RC 合同スポーツ大会
4月24日(水)18時～銚子ボウル



両 RC 会長による始球式



表彰 団体優勝：銚子東 RC

個人優勝：銚子東 RC 大木幹事



入賞おめでとうございます。

